

12. 島根大学医学部 緩和ケア講座

中谷 俊彦* 齊藤 洋司**

(*島根大学医学部 緩和ケア講座, **島根大学医学部 麻酔科学講座)

最近の医療界では、緩和ケアの重要性と必要性が高まり、がん医療だけでなくすべての医療人にとって必須と考えられる緩和ケアを習得することに注目が集まっている。その緩和ケアをより充実させるためには、大学が中心となって次世代の人材育成教育を行うことが求められており、全国の大学で緩和医療学の講座が設置されてきている。その中で、島根大学（以下、本学）では2012年度に緩和ケア講座が開設された。

そこで本稿では、本学における緩和ケア教育について、医学部学生教育、初期研修医教育、後期研修医教育、大学院教育に分けて説明を行う。

医学部学生教育

本学医学部医学科では、チュートリアル教育システムを2001年から取り入れて、学生自身の勉学意欲の向上ならびに自己学習能力の会得に重点をおいた教育を行っている。各専門講座は、担当の教育内容について1週間を基本とするカリキュ

ラムを組んで集中して行う。緩和ケアコースは2005年から導入されて、1週間のカリキュラムを作成している（表1）。

対象の学年は4年生で、必修コースである。緩和ケア対象患者の課題症例を提示して、その症例についてのグループ討議を行うことで身体・精神症状のマネジメントやチーム医療などについて学習する。必須基本知識の習得のための講義も行っているが、チュートリアルコースのまとめとして、学生の自主性を重んじたロールプレイを取り入れていることに特徴がある。緩和ケアコースの開始時に、コースのまとめを各班が全員参加して行うロールプレイとすることを伝え、ロールプレイのテーマを与え、その具体的な実施方法について参照ビデオを提示して解説している。

ロールプレイの発表時間は10分間で、1班あたり7～8名の12班である。テーマは「人の痛みについて考える」としているが、発表タイトルは学生たちがそれぞれ決める。学生たちには自ら

表1 緩和ケアチュートリアルコースのカリキュラム

	金曜日	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
8:30～ 10:00		講義 緩和ケア総論	コアタイム グループ学習	講義 看護(家族ケア)	コアタイム グループ学習	自習
10:15～ 11:45		自習	自習	自習	自習	試験
昼休み						
12:45～ 14:15	ビデオ放送 コアタイム 60分間	講義 痛みのマネジメント	講義 放射線療法	特別講義 スピリチュアル ペイン	全体発表 ロールプレイ	
14:30～ 16:00	講義 ロールプレイ 概説	講義 身体症状のマネジメント	講義 精神科症状の マネジメント	特別講義 トピックス		

緩和ケア専門医育成

年数 区分	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	6年目	7年目	8年目	9年目	10年目
研修内容	卒後臨床研修（2年）		緩和ケア一般研修		緩和ケア専門研修		緩和ケア 地域研修	緩和ケア 専門研修	緩和ケア自由研修	
研修施設	臨床研修病院		教育施設		教育施設				教育施設 / その他	
資格等			日本緩和 医療学会 入会						日本緩和 医療学会 専門医申 請と取得	

教育機関

研修区分	病院名	
	右記以外	特定地域（へき地）
島根大学 関連教育 施設	島根大学医学部 附属病院	大学関連地域教育 病院
他大学関 連教育施 設	大学関連教育病院	
島根大学 関連施設		
他大学関 連施設		
その他 (海外留学)		

8年次以降の高度専門医コース別医療機関

年数 区分	7年目	8年目	9年目	10年目
ペインクリニック コース	島根大学病院			
研究コース	島根大学医学部			

メッセージ

- 1) 日本緩和医療学会認定研修であり、都道府県がん診療連携拠点病院でもある本学医学部附属病院において、緩和ケア医として患者と家族の全人的な苦痛に対するケアに加えて、より専門的な診断・治療技術の習得を行い、日本緩和医療学会専門医の資格の取得を目指します。
- 2) 当院の緩和ケアセンターは、緩和ケア病棟、緩和ケア外来、緩和ケアチームのすべてをそろえた大学病院として有数の緩和ケア診療機能を持つ施設です。本学での研修を中心として、全ての臨床医に必須である緩和ケアマインドを持つ医師として、チーム医療を行うことができる緩和ケア医師を育成することが目的です。
- 3) ・ペインクリニックコース：緩和ケア医として必要なペインクリニックの診断・治療技術を、附属病院ペインクリニックで学び、習得することを目的とします。
・研究コース：本学大学院で緩和ケアの専門領域に関する研究を行います。
- 4) 各研修医の希望により研修内容の検討を行い、指導体制の質の向上を図り、より柔軟性のある研修プログラムを検討して提供するように努めます。日本・海外での関連学会・セミナーの参加、邦文・欧文論文発表などの積極的な学術活動も推奨します。

注) このプログラムは一般的なものであり、各個人の希望に応じた緩和ケア医育成プログラムが策定できますので、当講座にご相談ください。

図1 専門医育成プログラム

課題を抽出してシナリオを作成してもらおうが、完結型でも問題提起型でもよいと説明している。しかし、問題提起型の場合は、単に提起するだけでなく、自分たちならどう対応するのかまで考えて発表してもらおう。自分たちでシナリオを決めて、どのように考えて取り組んでいくかが大切であることを強調して、ドラマとしての面白さや、演技力は求めないことも伝えている。

広い視点から異なる立場になって考えることは、緩和ケアだけではなく、医療に携わるものとして習得すべき基本事項である。学生が自ら「人

の痛み」を考えてロールプレイで表現することにより、「緩和ケアを自ら学ぶ」ことができる具体的な教育法と考えている。このチュートリアルコースにより学生たちは緩和ケアへの興味が増し、「人の痛み」を理解する力が得られており、毎年継続して行っている。

臨床実習では、緩和ケア病棟での実習・チームカンファレンスを通して、緩和ケアのチーム医療について学ぶことに重点を置いて教育をしている。

初期研修医教育

本学医学部附属病院には、緩和ケア病棟・緩和ケアチーム・緩和ケア外来が設置されており、それぞれの領域が学べるシステムを構築している。

初期研修の2年間の中で希望者に対して緩和ケア教育を行うが、期間は1カ月であるため、緩和ケア病棟勤務を中心とする研修を行っている。緩和ケア病棟で指導医である主治医について、患者と家族へのケアを行うことで全人的な苦痛に対する包括的アプローチの実践を教育している。また、大学病院が行う緩和ケア研修会への参加も積極的に推奨して、基本知識とコミュニケーション能力の向上に努めている。

後期研修医教育

後期研修医教育は、緩和ケア専門医育成プログラム（図1）に基づいている。本学医学部附属病院では、2013年度から各科が専門医育成コースの計画を立てており、本学だけでなく地域関連病

院と連携することにより、専門医を育成していくための具体策を実践する方針としている。10年間のプログラム設定として、これからの緩和医療専門医育成を視野に入れた教育を予定している。

大学院教育

文部科学省に採択された「がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン」として本学を含む7大学のプランである「ICTと人で繋ぐがん医療維新プラン」に基づいて、地域がん医療に貢献するがん専門医育成コースを設定している。その中で緩和ケア領域の大学院生募集を行っている。

今後の課題

初期～後期研修医の教育により緩和ケアを実践する医師を育成するとともに、大学院教育を充実させて緩和ケア領域の研究・臨床・教育ができる人材育成に努めていくことが、これからの重要な課題である。